

都道府県名

徳島県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	上那賀町立平谷中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	4	11
生徒数	12	5	6	1	24	

研究の概要

1. 研究主題

「一人一人の基礎学力向上をめざした指導のあり方」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

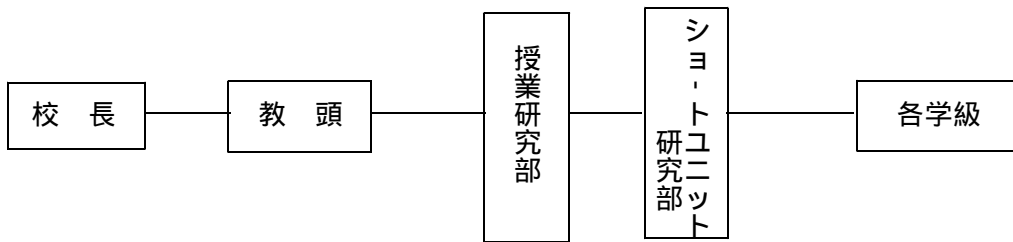
- ・1年生数学・英語
一番生徒数の多い学年であり、理解度に差が出やすい教科・学年であるため。
- ・1年生社会
専門教科教員二人によるTTを実施し、研究に取り組むため。
- ・3年生数学
理解の状況に差が大きいため。
- ・全学年国語・数学・英語・社会
毎日のドリル学習の研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「一人一人の基礎学力向上をめざした指導のあり方」</p> <p>研究の見通し 日課の中に「朝の読書」と「ドリル学習」の時間を設定し、毎日継続して取り組むことで、読解力や基礎学力を身につけさせることができる。またチームティーチングを行うことで、一人一人に応じたよりきめ細かな指導ができ、確かな学力の定着を図ることにつながると考える。</p> <p>研究の内容・方法 (朝の読書) 毎日出席点検後の10分間、全校一斉に読書を行う。</p> <p>(ショートユニット) 2校時と3校時の間に15分間のドリル学習タイム「ショートユニット」を設定し、国語・数学・英語の3教科を中心に、学年別・習熟度別に学習する。校内に1名ずつの国・数・英担当教員と、学年担当教員の3名体制で指導にあたる。教科担当教員がプリントや教材を用意し、全体を指導する。そして他の2名が、遅れの目立つ生徒を指導する形が基本である。3教科を約1週間交替でローテーションさせていく方法で、最終日となる金曜日には確認テストを行い、学習の定着度の確認を行う。</p> <p>(チームティーチング) 効果的な指導方法の研究や、教材の工夫、評価についての研究を行う。</p>
--------	---

平成 16 年	<p>テーマ 「基礎・基本の確実な定着をめざして」</p> <p>研究の見通し 宮浜中学校と統合になり、上那賀中学校として新しくスタートを切ることになる。両校の取り組みの良さを融合させ、生徒の実態を再確認してから研究を進めたい。「朝の読書」と「ドリル学習」の時間を設定し、毎日継続して取り組むことで、読解力や基礎基本の理解が十分になるであろう。またティームティーチングや習熟度別指導を生徒の実態に応じ効果的に行うことで、より個に応じた指導が可能になり、学力も向上すると考える。さらに家庭学習の充実を図るための取り組みも工夫したい。</p> <p>研究の内容・方法 (朝の読書) 毎日出席点検後の10分間、全校一斉に読書を行う。 (ショートユニット) より効果的な教科・指導方法・指導内容を模索していく。 (ティームティーチング) 効果的な指導方法や、教材の工夫、評価についての研究をさらに進める。 (質問教室) テスト前の放課後に行う。 (家庭学習の推進) 家庭学習記録表などを利用し、確実に家庭学習を習慣化させる。</p>
---------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

《 ショートユニットについて 》
生徒へのアンケート

問1 ショートユニットの時間をどう思いますか。

	1年	2年	3年
自分の学力向上につながっていてやりがいがある。	2	0	0
少し苦痛だが自分のためにがんばっている。	8	5	6
何とも思わない。	1	0	1
あまり意味がないし効果は感じられない。	1	0	1
全然意味がないしやめた方がよい。	0	0	0

問2 ショートユニットの時間(15分間)をどう思いますか。

	1年	2年	3年
ちょうどよい。	11	5	6
もっと長い方がよい。	0	0	0
もっと短い方がよい。	1	0	2

(名)

(名)

問3 ショートユニットの期間(各教科1週間)をどう思いますか。

	1年	2年	3年
ちょうどよい。	11	5	7
もっと長い方がよい。	0	0	0
もっと短い方がよい。	1	0	1

(名)

生徒の感想

- ・忘れていた漢字を思い出すことができた。
- ・計算のスピードが上がった。
- ・復習できるのでよかった。
- ・ショートユニットは難しいけどがんばったらできると思う。

一人一人の学力の実態を知ることができた。一人一人に応じた習熟度別指導を実施することができ、生徒も意欲的に取り組んだ。また授業中にはできなかった内容の理解や、忘れていた内容の復習につながり、基礎学力の向上に効果的だった。

《 朝の読書について 》

時間になると自然に読書をするという習慣が身に付いている。また休み時間や家庭でも読書をするようになった生徒が多い。生徒の態度にも落ち着きが出て思考力もついてきた。今の生徒は時間をとらないと読まないの、よい時間だと思う。読解力もついてきている。

生徒の感想

- ・読書の時間をもっと長くしてほしい。 ・小学校のときより本をよく読むようになった。
- ・リラックスできるので好きな時間だ。 ・すごく本が好きになった。
- ・難しい言葉を覚えた。 ・人のいろいろな気持ちがわかるようになった。

《 ティームティーチングについて 》

つまりいている生徒への対応がしやすい。毎時間小テストをし、採点も時間内に行えて評価の幅も広がった。授業展開時に必要な場面で演示などを行うことで、理解させやすい。

生徒の感想

- ・分からないことをすぐ質問できる。
- ・集中して授業ができる。
- ・分からないところを分かるまで教えてくれるからいい。

《 本校の取り組みについて 保護者へのアンケート 》

本校の次の取り組みについてどうお考えですか。

	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない	
朝の読書	82	18	0	0	
ショートユニット	50	50	0	0	
T・T	55	45	0	0	(%)

2. 今後の課題

- ・小学校との連携をさらに深め、基礎基本の定着や家庭学習の習慣化のために、一人一人に応じた指導や教材の開発等、協力して取り組みたい。
- ・生徒の中には、自分の力を知ることによって現状にあきらめてしまいがちになる者もいる。意欲を持たせ、楽しく学習に取り組ませる工夫や支援が求められる。
- ・小規模校には、行事や全校的に地域とふれあう学習などが多く、生徒は常に忙しいという状況がある。行事を精選し、落ち着いて学習に取り組める環境づくりが必要である。
- ・ショートユニットの内容がマンネリにならないように、教材の工夫をしていきたい。
- ・4月からの宮浜中学校との統合をふまえ、両校の実践を統合・発展させた取り組みが求められている。

学力把握のための学校としての取組

- ・標準学力調査（年2回 5月・3月に実施）
- ・定期的なテスト（課題テスト・中間テスト・期末テスト）
- ・授業開始後の小テスト
- ・ショートユニット確認テスト（金曜日）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究会 H 15. 11. 14 那賀小松島勝浦地区研究発表授業公開（平谷中学校）
- ・研究発表 H 15. 11. 27 上那賀教育研究発表会 取り組みの発表

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無